

町田市における豪雨災害の現状と対策ー市民から見た時の課題として

伊藤久雄（認定NPO法人まちぼっと理事）

1. 近年の町田市内の豪雨災害

町田市内で大規模な浸水が起こったのは、昭和41年6月28日の「台風4号」と、昭和51年9月8日から3日間の「台風17号」による2回で、境川・鶴見川・恩田川等の流域で浸水被害があった。この被害エリアは『町田市洪水ハザードマップ』上で確認できる。水被害の履歴を示すことができるは、この2回のものである（町田市ホームページ）。

なお、『町田市洪水ハザードマップ』上では、もしも洪水が起こった場合に避難できる「洪水時避難所」、「洪水時臨時避難所」などを地図上にて掲載している（町田市FAQ&Q&A）。

また「平成元年台風19号」では、床上浸水、床下浸水各1棟、土砂崩れ18箇所が記録されている（東京都防災ホームページ）。

2. ハザードマップの現状

そこでハザードマップを見ることにある。

町田市では2018年度に東京都が公表した境川流域及び鶴見川流域の浸水予想区域図を基に、「町田市洪水ハザードマップ」を作成している（水防法第15条第3項に基づき作成）

地図面には、洪水氾濫による浸水区域（外水・内水）や浸水深、避難施設（避難所）を掲載し、学習面には市民自身の行動を時系列で考えていただく「マイ・タイムライン」や「警戒レベルと防災気象情報」、「避難行動とは」、「日頃からの準備」と風水害に備えるために必要な情報を掲載している。

町田市では内水ハザードマップ及び高潮ハザードマップは作成していない。なお、内水氾濫による浸水範囲については、洪水ハザードマップに掲載している。（町田市HP）

※内水氾濫（「みんなのBCP」より）

<https://bcp-manual.com/bcp/risk/about-water-flood/>

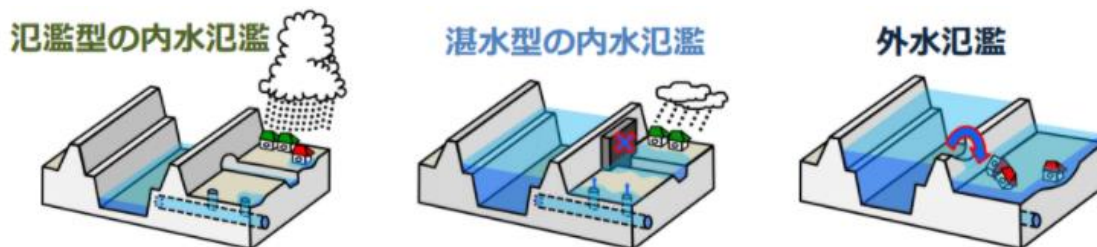
<内水氾濫は排水が追い付かず市街地が水に浸かること>

内水氾濫は、市街地に排水能力を超える多量の雨が降り、排水が雨量に追い付かず建物や土地が水に浸かる現象。

内水氾濫はさらに二つのパターンに分けることができる。河川の増水によって排水の役割を担う用水路や下水溝が機能不全となり、少しずつ冠水が広がる「氾濫型の内水氾濫」、もう一つは、河川の水が排水路を逆流して起きる「湛水型の内水氾濫」。湛水型の内水氾濫は、下記画像の通り（次ページ）河川の水位が高くなっている場合に発生しやすくなる。令和以降の実例としては、2019年、多摩川の水が逆流したことで湛水型の内水氾濫が発生し

ている。

※ 2019 年の多摩川沿いの内水氾濫は、世田谷区と狛江市、調布市で発生した。



3. 調整池等の状況

① 境川における調節池の整備について

境川は、延長約 52 k m の二級河川である。このうち東京都が管理する区間は、鶴清橋上流～根岸橋までの約 10, 5 k m。東京都管理区間では、下流の神奈川県区間の改修状況を踏まえ、河道整備に先行して 1 時間あたり概ね 65 mm の降雨にも対応する調節池を整備し、早期の治水安全度向上を図る計画となっている。

東京都では境川の治水対策として地下調節池の整備を進めており、金森六丁目 1406 番 1 外に「境川金森調節池」を、木曽東二丁目 195 番地 8 外に「境川木曽東調節池」を整備している。

平成 28 年 5 月 22 日 事業説明会配布資料（抜粋）



<金森調節地>

- ◇ 概要 （前ページのとおり）
- ◇ スケジュール

2-1. 全体事業スケジュール(予定)								
	2018.10月				2024.5月			
工 期	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
【調節池】仮設 (家屋調査・地下水井戸調査を含む) (パイプコンベヤ設置・地中連続掘工を含む)								
【調節池】土工								
【調節池】本體工								
【越流堤】								
【管理棟・機電設備】								
2019.9月 2022.1月 今回契約工事								

<木曽東調節池>

境川木曽東調節地の貯留量は約4.9万m³で形式は地下箱式。施行規模は、延長約115m、幅約60m、深さ約22mになる。別途工事において、地上2階建ての管理棟や、附属施設である排水ポンプ、換気設備等の設置を行う予定となっている。

- ◇ 完成イメージ



② 鶴見川恩廻公園調節池

鶴見川は町田市上小山田町を水源とし、多摩丘陵を流れ、川崎市、横浜市を大きく蛇行しながら東京湾に注ぐ、延長42.5キロメートルの一级河川。このうち、東京都の管理延長は都県境から上流に12.78キロメートルとなっている。昭和50年代以降、総合治水対策特定河川として河川改修の促進を図ってきたが、平成17年4月に流域が一体となって浸水被害対策を推進する特定都市河川流域に指定された。

東京都の管理区間には、良好な自然環境が残されており、それを活かした多自然川づくりも、鶴見川整備の特徴の一つ。

川崎市内も昔から「暴れ川」として有名で、常に水害に悩まされ続けた洪水対策として、平成5年度の計画段階から平成15年度完成までの神奈川県との長期事業により、鶴見川と麻生川の合流点 上流に恩廻公園調節池を建設した。

恩廻公園の地下に設置したトンネルに、洪水時の水を一時的に貯留することで、鶴見川を時間60ミリの大雨から守っている。現地は川崎市内であるが、都県境にある町田市もこの調節池によって守られている。

◇ 概要

面積：2.27ha

構造形式：地下調節池（トンネル） 貯留容量：約11万m³

トンネル内径：標準直径15.4mから16.5m トンネル延長：約600m

排水方式：ポンプ排水 排水時間：1日から2日

流入方式：横越流流入方式 越流堤長：80m

<2021年4月9日に現地見学会>

2021年4月9日、川崎市にある鶴見川の恩廻（おんまわし）公園調節池を見学した。

日本では珍しい地下トンネル構造の調節池（環七地下調節池は有名）。それは、旧河川を公園化し、その地下にトンネル形式の調節池を造ったからである（平成15年度完成）。案内板の上部の緑色（公園）調節池がある



鶴見川下流から越流堤をよく見ることができる。左側下流の排水は下水処理水の流れである。越流堤とは、両側の対岸より低く造られ、鶴見川が増水したときの取水庭と呼ばれるところに水が流れ込む仕組みになっている。（次ページの写真）

地下7階レベルに造られた地下トンネル形式の調節池がつけられている。作業用の立坑が造られており、階段もあるが私たちはエレベーターでトンネルまで下りた。

トンネル内は16度Cほどで肌寒く感じられた。



③ 町田市内の保全調整池

都知事は、雨水を一時的に貯留する機能が河川流域における浸水被害の防止を図るために有用と認めるときは、防災調整池を『保全調整池』として指定できることになっている。特定都市河川の流域内で、開発などによりつくられた防災調整池のうち、民間で所有管理されている貯留量が100立方メートル以上のものが指定の対象となっており、2006年3月の19池の指定以降、順次、東京都が指定を行っている。

現在は53の保全調整池がある。最も貯容量の大きいのは小山田桜台団地内の3つ保全調整池で、のA29,767 m³、B15,673 m³、C36,014 m³、合わせて81,454 m³もある。次いで町田山崎団地RA（山崎町地内）の21,131 m³、日大三校保全調整池（図師町地内）で17,000 m³などがある。

4. 今後の課題

「境川巡り浸水想定ズレ 相模原市と町田市 雨量で差、戸惑う声も ...」という記事は、2017年5月12日の神奈川新聞の記事である。2019年の台風19号の2年前の記事であり、神奈川県、あるいは相模原市として対応済みの課題かもしれないが、以下引用する。全文は

次にアクセスされたい。

<https://www.kanaloco.jp/news/social/entry-12655.html>

相模原市と東京都町田市の境を流れる２級河川「境川」を巡り、両市の洪水ハザードマップで浸水時の水位に２メートル以上の違いが出ている。１００年に一度の大雨を想定する相模原市に対し、町田市はさらに激しい雨による深刻な被害を想定しているためだ。護岸や周囲の地形は大きく変わらないが、町田市側だけに洪水想定域が広がる現状に相模原市民からは戸惑いの声が上がっている。

相模原市のマップ（２００９年作製、１５年連絡先など改訂）では、「１００年に１回程度発生すると想定された大雨」が降り、２４時間雨量が２９２ミリに達すると規定している。境川に近い避難所の市立宮上小学校（同市緑区橋本４丁目）は、上流や下流に５０センチ未満の浸水域があるものの、それを上回る洪水の心配はないように見える。

一方、町田市のマップ（０５年作製）では広い範囲の浸水被害を想定。同小学校の対岸に２メートル以上の深さの浸水域が広がっている。同市によると、００年９月の東海豪雨を基に総雨量５８９ミリ、時間最大雨量１１４ミリを想定。相模原市が想定する２４時間雨量に約３時間で達してしまうほどの激しい雨だ。

わざわざこの記事を取り上げたのは、今回（４月９日）に鶴見川恩廻公園調節池を見学したことに関係する。鶴見川恩廻公園調節池は川崎市内にある。川崎市にあっても町田市と無関係ということではなく、密接に関係している。それは町田市内に建設中の金森調節地や木曽東調節地も、相模原市の市民にも大きく関係している。

今後は、町田市と相模原市との市民間の意見交換の場を持つことも必要である。また、町田市内の保全調整池のことをよく知っている市民はどれくらいいるだろうか。市内の施設をよく知ることも災害対策を考える上で重要である。これらも今後の課題としたい。